令和６年度　第３回静岡市駿河区地域包括支援センター運営部会議事録

１　日　　時

令和７年２月 18 日（火）　午前 10 時から 12 時まで

２　場　　所

静岡市地域福祉共生センター　「みなくる」２階　第一会議室

３　出 席 者

（委員）古井委員、望月委員、稲垣委員、鈴木委員、田村委員、下村委員

（駿河区地域包括支援センター）７地域包括支援センター

４　事 務 局

駿河福祉事務所高齢介護課　　高齢者福祉係

保健福祉長寿局　地域包括ケア・誰もが活躍推進本部　　地域支え合い推進係

５　傍 聴 者

２人

６　意見交換（司会及び進行は古井部会長により実施）

（１）各地域包括支援センターから令和６年度の活動状況について報告及び意見交換

別紙　各地域包括支援センター部会シート参照

＜丸子包括＞

包括：

重点項目の 1 点目として、ケアマネジャーやサービス事業所を対象とした権利擁護の勉強会を重ね、権利擁護の知識の普及に力を入れて取り組んだ。実績として、長田包括と合同で勉強会を開催し、勉強会後のアンケートをもとに企画から携わった主任ケアマネジャーたちと今後について検討している。日常生活自立支援事業や成年後見支援センター、身元保証会社まごころに講師を依頼し勉強会を行い、権利擁護事業に繋がるまでの問題点や課題を挙げた。問題点や課題に対してすぐに対処するのは難しいが、知識などの普及が重要だと感じたため、権利擁護の勉強会を継続していきたい。また、今年度は日常生活自立支援事業や成年後見制度といった権利擁護に関する相談も増えてきたため、引き続き権利擁護に力を入れていきたいと考えている。

重点項目の 2 点目として、ケアマネジャーとの連携強化を挙げた。長田包括と合同でケアマネジャーを対象に、3 年計画の勉強会を開催し今年度 2 年目となる。今年度は俯瞰的に

見るというテーマで勉強会を行い、改めて勉強になったという声が多く聞かれた。3 年目は実際の事例を踏まえた内容の勉強会の開催を考えている。自立支援プラン型地域ケア個別会議に関しては今年度 3 回実施した。元々 4 回を考えていたがこの会議を 3 回行っていく中で、①高血圧・高血糖の疾患が多い点、②特定健診のデータで当圏域の長田西・長田北が静岡市の健康データと比較し高血圧や高血糖の方が多い点を踏まえて、会議の 4 回目を疾患に焦点をあてたケア会議を 2 /20 に開催する予定。会議には自立支援プラン型地域ケア個別会議に出席している専門職や地域の医師にも参加してもらい、ケアプランを立案する上での疑問点や、どこを見ていけばよいのかというアドバイスができればと考えている。ケアマネジャーの反応を見つつ、来年度も疾患別という点での勉強会等に反映できたらよいと考えている。ケアマネジャーと民生委員との顔合わせや、居宅支援事業所を訪問し、ケアマネジャーの抱えている問題について意見交換を行った。ただ、今年度は事業所を辞める方もいたため、来年度も居宅支援事業所への訪問などを行い、包括との関係性を再度構築していきたいと考えている。

3 点目の健康講座においては、今年度当包括に医療職が多かったため重点項目として挙げた。認知症サポーター養成講座やふれあいカフェを開催し、かけこまち七間町の協力を得て認知症体験を 3 月に実施予定である。ケアマネジャーを対象とした会議や S 型デイサービスにおいて健康講座を実施しており、引き続き地域住民の健康普及に反映できるとよいと考えている。

古井部会長：

1/22 の勉強会後の地域ケア会議において、新たな課題が抽出されてきたのか。

包括：

この圏域会議で、成年後見支援センターと日常生活自立支援事業、認証を受けている身元保証サービスのまごころの主任ケアマネジャー、包括職員というメンバーで開催した。事業の申込みから開始までに時間がかかるためモチベーションを保っていくことが、支援者の中で大変な課題になっている。もう一つは、ケアマネジャーが権利擁護の諸制度や事業に繋がるまでにシャドウワークがかなり多く非常に苦労しており、繋がるまでの公的な支援があるといいという話が出ている。また、成年後見市長申立てについては支援者から福祉事務所への依頼で、緊急性を共有することや緊急度の捉え方が各区によって差があるという話も出ている。

古井部会長：

繋いでいくときの各専門職の大変さが課題として出ており、これは丸子包括圏域だけではない課題だと感じた。事前の各委員の助言でも介護支援専門員を交えた研修や連携だとが非常によく行われている、民生委員とケアマネとの顔合わせ等はできているというとこ

ろが各委員からも評価されているため、引き続きこうした取り組みを進めていただきたいと思う。

＜大里高松包括＞

地域ケア会議の実施状況について、4 回目の自立支援プラン型地域ケア個別会議を 2 /19 に開催予定である。毎回 3 事例をやっていたが 2 事例にして、今回ケアマネジャーと薬剤師へ見学者を募集し、事例の検討後に専門職とケアマネジャーとの座談会を計画している。ケース対応型地域ケア個別会議を 4 回、地域ネットワーク形成の地域ケア会議を 1 回開催し、大里東・宮竹学区でケアマネジャーと障害の計画相談事業所、民生委員、生活支援コーディネーターと地域の課題について共有した。

重点項目 1 つ目の総合相談支援事業について、複合的な課題に対して事例検討会や地域ケア会議、重層的支援体制整備事業の活用実績は、記載のとおりである。重層的支援会議やこころの健康センターのアウトリーチ会議など様々なものを活用し、アドバイスを受けている。

2 つ目の包括的継続的ケアマネジメント事業については、主任介護支援専門員連絡会を実施し、ケアマネ同士の情報交換ができるよう主任介護支援専門員が中心となって開催できるように支援している。事業実績としてはヤングケアラーの研修会を企画した際、地域の主任ケアマネジャーが打合せの段階から参加した。ケアマネサロンは八幡山包括と一緒に毎月実施しており、当包括は偶数月を担当している。また、介護支援専門員との研修を通して生活支援コーディネーターと意見交換ができる時間を作っている。ケアマネジャーは毎月 10 時から 16 時、いつ来てもいいし帰ってもいい形でやっているが、顔触れがいつも一緒になっているため今月も来月もゲストスピーカーを呼んでいる。来年度も八幡山包括と相談しニーズにあたるようなゲストに来てもらいながら輪が広がっていくといいのではないかと考えている。

3 つ目の認知症総合事業について、認知症地域支援推進員が中心となって地域に認知症に対する理解を広げていくこと、認知症初期集中支援チーム員が活動するということを目標に挙げている。実績では、認知症初期集中支援チームの事例がモニタリングの期間となっている。認知症地域支援推進員が中心となり福祉フェスタなどに参加したり、中田まつりなど地域の祭りにも参加している。また、商業施設では駿河区の認知症地域支援推進員と合同でイベントを開催した。その際に南部図書館にも声をかけブースを出展してもらい、福祉とは違う分野と連携ができたことが良かったと考えている。初期集中支援チームについて今年度は包括チームがメインで動いていたため、次年度は疾患センターにメインで動いていただくような形で一事例チャレンジしてみたいと思っている。

望月委員：

いろいろなデータを書いてもらい、様々なところから難しい相談がたくさん入り対応し

ていることがわかった。認知症初期集中支援チームを初めて利用し、総合相談ではなくこのチームを使って良かった点があれば教えていただきたい。

包括：
　包括チーム主体で動くことに関しては総合相談との棲み分けが難しいところがあった。チーム員として関わりの開始と終了の時点で必ず認知症サポート医に会議に入っていただく手順があるが、今回のケースでは主治医であったことから、支援チーム員として助言をもらう機会があったところが良かったと思う。

望月委員：
　主治医ではない場合、専門職の繋がりで一番時間がかかって大変だと思うがどうか。

包括：
　初期集中支援チームに対しては、何年も前に最初に各区で一つずつのモデル事業をやったときに、当圏域で協力的なサポート医がいらっしゃったため、主治医がいない段階で先生に声をかけさせてもらい会議に入っていただいた事例がある。

古井部会長：
　事前の助言提言シートの質問に、認知症初期集中支援チームの活動を通して市長申し立てに繋がった話を具体的に伺いたいということになっているため補足を聞きたい。

包括：
　市長申立てに関しては、個別の地域ケア会議などを開いて高齢介護課に参加していただく中でお願いすることも多い。初期集中支援チームの中で市長申立てが必要というところだと、消費者被害などで本人の権利を守るという点でも必要なため、高齢介護課に会議に参加してもらい話を持っていけたところが良かったと思う。

＜小鹿豊田包括＞
　重点目標１つ目として、身近なところで知名度を上げることに取り組んでいる。昨年度の包括のチラシを改良し、現在関係機関に２回目の配布を行っている。1 回目のときにはオーラルフレイル予防を、今回は軽度認知症の予防について記載をしている。チラシを配りながらＳ型デイサービスや勉強会等で予防意識を高めた。
　２つ目のフレイル、認知症予防を広めるということで、地域の勉強会や Ｓ 型デイサービスで歯科衛生士によるオーラルフレイル講座を 1 回行い、健康器具を使った健康講座等も行った。昨年から地区社協の高齢者部会から依頼を受け、先日、地区社協主催の東豊田の健康いきいき講座で健康機器を用いて 39 名の検査を行った。当包括の保健師が産休に入って

いたため高齢者部会の方で南部保健福祉センターから保健師 2 名と栄養士 1 名を派遣してもらった。検査結果をデータ化するだけでなく今後どのようにしたら良いのかという保健師や栄養士の相談が好評だった。次にマンション単位での活動として、継続的に課題を集約して対応している。マンションの 1 階にある密着型デイサービスと共催し、お茶会のような形で開いてちょっと暇な時間に体を動かしたり、健康について考えたりしてもらう場を検討している。

三つ目の地域のネットワークづくりについては、自立支援プラン型地域ケア個別会議の 4 回目を 2/20 に予定している。地域ネットワーク形成等にかかる地域ケア会議としては、2/27 に自宅でずっとミーティングを開く予定である。大学の先生に来ていただき「コンパッションの地域づくり」をみんなで考えようという企画を計画している。最後に、ケアマネジャーと民生委員話し合いが 3 学区で終わり、顔の繋がる関係づくりができた。ケアマネジャーからも会議が良かったという声が聞かれたため、この相互交流について継続していきたい。

古井部会長：

事前の助言提言のシートの中で「マンション単位での関わりについて現状や今後の課題について伺いたい」というのがあったため、その点補足をお願いしたい。

包括：

大きく関わっているマンションが 4 つあって、それぞれマンションの課題に合わせた形で対応を進めている。今後の課題についてはマンションそれぞれの特色があり、管理組合の協力が得られるところもあれば、得られないところもあり対応が変わってくる。4 つのうち２つが自治会から離れて単位自治会として活動している中で、民生委員の問題が発生してきている、マンション自体の問題点がでてきている。もう一つのマンションもいずれ自治会から抜ける予定である。マンションが力を入れることはとても良いが、地域とのかかわりが薄くならないよう支援を続けていかなければならないと思っている。

稲垣委員：

今の説明の中で民生委員の問題というのがあったが、民生委員として聞いておきたい。

包括：

自治会を抜けることで、民生委員とのかかわりが薄くなってしまうマンションがある。

稲垣委員：

そのマンションに高齢者は少ないのか。

包括：
　少なくはない。現在民生委員を選出できていないマンションもある。

古井部会長：
　自治会からの推薦を得て、民生委員が選任されるケースが多いため、自治会との関わりが取れなくなると民生委員の選出が難しくなるということか。自治体と管理組合がうまく連携できないため、民生委員選出というのは非常に難しくなってくる。

包括：
　そのあたりはなんとかしなければいけないと思っている。

古井部会長：
　ネットワーク形成の会議が開催されていないということだが、いろいろ活動を聞いているとできている気もするがどのように考えているか。

包括：
　ネットワーク形成会議だが、自宅でずっとミーティングを行う予定である。民生委員とケアマネジャーとの会議の中にネットワーク形成が入っているため、そこが計上できていなかったと思う。我々の法人が済生会ということで医療や障害の面で持っている強みがあると思うため、上手にメリットを生かしながらネットワーク形成ができたらと思っている。

＜大里中島包括＞
　地域ケア会議実施状況については記載のとおりで、自立支援プラン型地域ケア個別会議を１回開催している。ケース対応型地域ケア個別会議は 3 回で、地域ケア会議に至らない事例検討会での困難事例ではケアマネジャーも含めて検討会を行っている。地域ネットワーク形成等にかかる地域ケア会議は７回行った。
　重点項目１つ目の認知症啓発活動では、昨年度から児童向けの認知症サポートを取り組み始め、２年連続で行うことができた。こちらは委員の皆様からも評価をしていただき、子供たちの反応など非常に好感触を得ている。やはり教育というところで幼い子供たちにもかなり効果があるため、ぜひ来年度も継続したいと思っている。住民ボランティア組織などを対象に「自宅でずっと」などの会議を行ってきたが、S 型サロン等も含めての課題として、ボランティアに携わる方々や参加者の住民たちも含めて、参加者と担い手双方が減少して人が集まらないことが様々な会場で生じている。どちらもコロナ禍後に回復してくると期待していたが、期待に反し減少しており、おそらくこのまま減少傾向が続くという見方も出ている。今後の地域活動において今ある地域住民の集う機会を活用していくことが手段の一つだと感じている。

2つ目の専門職種との連携継続は、ここ数年軌道に乗っている。今年度当初はケアマネジャーの協力を得られるか不安だったが、予想に反して積極的に取り組んでもらえたのが良かったと思う。昨年は専門職種、ケアマネジャー以外にも栄養士や理学療法士に参加してもらったが、少し求めるもののずれが生じたと感じたため、今年度は原点に戻って、ケアマネジャーの意向を重視した催しを開催している。講師や内容も変更して、11 月・1 月とそれぞれエンディングノート活用術や BCP の講師を呼んで開催することができた。来年度も引き続き行っていこうと思うが、ケアマネジャーの数が減ってきていて異動も非常に激しくシャドウワークがかなり負担になっているため、来年度はシャドウワークをテーマにしていこうと考えている。

3つ目、グループホームとの連携については、グループホームの開催する運営推進会議に定期的に包括の職員が参加しているが、一方通行でグループホームにチェックしてもらうことができなかった。ようやく 2/13 に大里中島圏域 5 つのグループホームすべてから参加してもらい会を開催することができた。初回のため顔合わせや情報共有、日々の困りごとなど座談会形式で実施した。会の趣旨として地域に少し目を向けて包括と連携したり、うまくいけば地域の方に一緒に考えていただいたり、地域貢献といったところまで進めていきたいと話したところ、グループホームの方々も地域に関心を持っていることがわかった。来年度もぜひこの会をやってほしいという要望が出たため、グループホームの方々と会を開催していきたいと思っている。この会の方向性については定まりきれていないが、スタートとしてはなんとか取り組むことができた。

望月委員：

グループホームが一堂に会する場を設けることがようやくできたという感じが伝わった。地域づくりは、すぐに結果が出ることが少ないと思うので、継続的な関わりや結果が見えない継続的なことがすごく大事だと思った。

古井部会長：

やはり個別のグループホームとの関わりだけでなくて一堂にグループホームの方に集まってもらい、地域のことを考えていくきっかけ作りができているというのは非常に大きな効果があると感じている。

＜八幡山包括＞

包括：

重点項目の 1 つ目として、相談があった高齢者の意思や生活状況をアセスメントして、相談内容に合わせた提案を行い自己決定に基づいた支援が行えるようにしていきたいということがある。これに関しては、職員間の情報共有を図り支援者の状況がわかるようにしている。可能な限り情報提供して、相談者が判断をしていただけるような形をとり、関係機関

との連携も随時行っている。良かった点に関しては、相談者に必要な支援を行う機関との情報共有が行われた。具体的には地域の開業医から、最近調子が悪いみたいなので様子を見に行ってくださいというような連絡が包括に来るようになっている。

重点項目の 2 つ目として、ケア会議を活用して自宅でずっとの生活が続いていけるようにとあるが、会議を開催するきっかけがつかめず開催ができていない。問題点などがいろいろ出てくるが、それを統合できなかったことが開催できなかった原因なのではないかと思う。自立支援型ケア会議の方は今週末に 4 回目を行う予定である。今回自立支援型ケア会議やケアマネの連絡会相談会を開催し、3 月には医師会の医療・介護連携相談室の看護師を招きケアマネジャーの医療に困っていることを聞いてもらう機会を設けていきたいと思っている。市営団地ではボランティア活動もとてもしっかりできており、ウエルシアの販売やキッチンカーなど、お祭りのような感じになってきて活性化ができているのかなと思う。県営団地は高齢化が進み、介護の車両が止まるスペースがないということで、県にかけあい駐車スペースの確保ができた。デイサービスの車はそのまま停めてもよく、その他の福祉系や医療系の車は専用のスペースを作ってくれることになった。来年度の予算組みができるようで、地域の力は大きいと実感している。その次の段階として、ボランティア活動を行いたいと考えており生活支援コーディネーターと連携していきたい。

重点項目 3 つ目として、地域住民やケアマネジャーの関係機関が連携できるようにケア会議で地域の問題点を挙げていく、地域資源による支援体制の継続となるための地域資源の創出、支援を行うことだが、今年度富士見地区で 15 回、居場所作りのきっかけとして生活支援コーディネーターと共同して認知症の相談会を実施した。かけこまちの出張ブースに相談件数が 3 件、16 名の参加があった。この相談会後、居場所づくりの相談があり、設立に向けた支援を生活支援コーディネーターと行う予定である。ただ、地域づくりで自治会長と民生委員が立ち上げたいという場合と、同じ地区で自分たちでも立ち上げたいというような、2 本立てで相談が来ている。別々で立ち上げていくのか、統合していくのか等居場所づくりができるよう生活支援コーディネーターなどと相談しながら妥協点を見つけていくのが来年度の課題だと感じている。そのためにはネットワーク会議のような形で開催して、その中で意見を交わし地域の中で妥協点を見つけていくことが必要だと感じている。

古井部会長：

委員の意見提言シートのところに「自宅でずっとの現状と今後の課題について伺いたい」ということで、先ほどなかなかきっかけが作れずという話があったが少し補足していただく形でそのご質問にお答えいただけたらと思う。

包括：

自宅でずっとは専門職だけではなくて、地域の方たちがどれだけ参加していただけるのかが一番の課題だと思う。地域づくりをどうやっていったらいいのかというところに踏ん

切りがつかない。どんどんやっていきたいっていう方と、様子を見ていきたい方、うちは関係ないという方がおり、なるべくやりたいという方をどうやって増やしていくかも考えていかなければならないと思う。見守りがある中で生活していくのが一番安心できるため、異変があったときに連絡をくれる地域の方がいるのは心強い。そういう方を増やしていくことも自宅でずっとに繋がっていくのかなと思っている。

古井部会長：
　ケース会議やネットワーク会議が開催されていないが、一つ一つの良い取り組みが少しずつ広がり出している。今いろいろご報告いただいたような課題を考えていく上で地域ケア会議をうまく利用して、地域づくりをしていったらどうかという助言もあるが、今後の課題に向けてとっかかりはあるのか。

包括：
　富士見地区で居場所作りのところが２本で動いているため、それをうまく統合することが地域作りのきっかけになっていく、ケア会議を開催するきっかけになるのかなと思っている。

古井部会長：
　必要性が認識されているが、なかなか会議に向けて動けないのは何かあるのか。

包括：
　地域の中の関係性として、とても良好な関係であればすぐケア会議の開催につながるが、2 者の関わりをどうやって繋げていくかを悩んでいる。お互いに背を向けられてしまうと地域づくりができなくなるため、妥協点をどうやって見つけていくかが課題である。

＜大谷久能包括＞
包括：
　重点項目１つ目の包括業務の周知と大谷久能くらしみまもりたいの普及についてである。今年度も民生委員と協力して、圏域定例会で自治会組長たちに圏域内の高齢者を気にかけてもらい、民生委員や包括支援センターに繋いで欲しいと啓発活動への協力依頼を行っている。地域の活動の場や、圏域の開業医へ顔を出すことで「誰々さん、最近大変そう」とか「診察券忘れることが増えた」とか「少し話を聞いて」などの声や相談の電話がかかってくることが増えている。日頃から関わりある人たちの支えの情報や、早期改善に繋がることは少なくない。今後もこの取り組みを継続することで、みまもりたいを風化させることなく活動を維持していきたいと思っている。10 月の地域防災をテーマとした圏域会議では民生委員から地域の防災訓練や要援護者支援の話があがるようになり、今後の見守りにおいて防

災の視点を取り入れるとの声が聞かれている。2/13 の地域ケア会議で民児協と今年度の見守り活動についての振り返りを行い、久能地区の高齢化が昨年より進み見守り活動が大変になってきたこと、大谷地区に関しては若い世代が入ってきたことで地域の繋がりを維持することが難しいという課題が挙がってきた。

重点項目 2 つ目の多職種連携による地域の取り組みだが、フレイルや認知症予防について地域の関心が高いため、薬剤師や理学療法士に来てもらい S 型デイサービスや自主グループを中心に地域の介護予防に努めている。ACP や防災を見直し、民生委員と知識の習得に加え地域の事情に応じた情報交換を行い、顔が見える関係作りを行った。次年度も継続していきたい。

3 つ目の介護予防を目的とした活動では、自立支援プラン型地域ケア個別会議が 1 回にとどまっている。当圏域で居宅事業所が 4 つしかなく、1 事例に対して個別の課題が出てきたため、本人や支援者、生活支援課などとお金の問題や老老介護について会議を開き解決に結びついた。大谷ささえあいマップについては昨年末に完成し、今年度に入り配布を開始している。作成にあたっては主に地区社協福祉部会が中心となり、支え合いの場の確認を行った。マップに載せる内容については、住民や圏域ケアマネジャーの視点や、包括に寄せられた相談から必要と思われる内容を考えて検討を重ねた。自宅近くの会場を知っているが、他の会場でいろいろやっていることを初めて知ったという声が聞かれ、実際に繋がったケースもある。対応していない事業所からマップを目にして、事業所付近に活動場所がないから検討したいという声も上がっている。見直しは 2 年ごとになっているが、新しい場所の追加等引き続き地域で話し合っていく。このマップを使いながら包括的継続的ケアマネジメント支援の事業にケアマネジャーや事業者と一緒になって関係づくりをしていきたいと思う。

望月委員：

マップを見て、本当に意識していただいていると感じた。見える化することで課題がわかりやすくなり、包括や地区社協だけでなく、現場の様々な人が自分のまちを見てここに課題があることを考えるきっかけになるプロセスがあったと思う。マップ作成により色々な人が考えるきっかけになったことは素晴らしい取り組みだったと思う。

古井部会長：

マップの作成は地区社協としても協力する形になっていると思うが、なかなか地区社協でこうしたことをやろうとしてもかなり負担が大きいと思う。工夫したことや、ここに至った経緯を教えていただきたい。

包括：

マップ自体の具体的な取り組みは今年度からになるが、2 年前からのこの話が持ち上がっていたことと、それ以前にみまもりたいや生活支援コーディネーターも含め地域との繋が

りがあり、それぞれが大枠の地域活動に継続して顔を出していたため、あまり負担感なく同じモチベーションでこの活動を広げていきたいとの声を聞いていた。個人の氏名と電話番号が載っているところに少しリスクを感じるところもあったが、事前に全ての会場にアンケートをとり、個人情報の取り扱いや活動内容、誰に来てもらいたいかを一つ一つ確認をとっていた。最初はあえて名字だけ載せていたが、家族と同居している方や本人以外のご家族が出てしまうと混乱が生じるだろうということで、皆さんの同意を得て氏名を載せている形となった。

古井部会長：
　子ども向けの支援から個人的なことまで細かく把握されていて、合意をとりながらそれぞれの情報も掲載されており非常に参考になる取り組みだと思う。
　地区社協や生活支援コーディネーター、包括、それから地域福祉推進センターそれぞれの思いというのはやはり大谷地区の高齢化が進み人材の担い手がいないという問題意識がかなり共有化されているところもあるのか。

包括：
　昨年度に地域づくり会議を大谷と久能で開催しているが、その開催にあたっても地域の事業所、例えば美容院や郵便局も含めたあらゆる分野の事業者にアンケートをとっているためそれをもとに課題を話し合うことができている。

古井部会長：
　具体的なアンケートは誰が実施しているのか。

包括：
　それぞれに得意分野があるので、包括であれば医療機関や福祉関係者というように分担してアンケートを取っている。

＜長田包括＞
包括：
　重点項目１つ目の学区別地域ネットワーク会議の実施について報告する。地域ケア会議、地域ネットワーク会議について、昨年度は長田東・南、川原、３つとも包括主催で実施し、郵便局や銀行、薬局、警察や消防など、今まで関わりが少なかった機関に参加してもらいネットワークづくりの話をした。今年度は長田東学区、川原学区が社協の地域支援事業の立ち上げ支援金助成のため、3 回以上ネットワーク形成のための会議を実施しなければならず、そのうちの 2 回目に川原学区と長田東学区の地区社協と包括共催で実施した。1 回目と 3 回目は地区社協主催の会議に参加した。川原学区 3 回目のネットワーク会議では、ボランテ

ィアの持続性が議題となった。ボランティアをすることで対象者の自立の阻害に繋がってしまう可能性があることや、依頼当初は必要性があったがその後本人体調が改善し、自分でできるにもかかわらずボランティアの継続を希望しているなど、ボランティアの基準を考えていく時期に来たのではないか等意見交換が行われた。3回目会議は長田東で 1 月に実施、長田南で 3 月に実施予定。ケア会議で防災面についても今後議題に上げていくつもりであり、来年度も継続して続けていきたいと考えている。

3つ目の脳の健康度テストの継続実施について、脳の健康テストを 2/5 と 2/19 の前後編で実施する。一般介護予防、認知症予防への関心が社会的に高まる中、長田包括の今年度の成年後見申し立ての相談件数も増え、令和5年度は 3〜5 件だったが、今年度 10 件程度相談が来ている。昨日も遠方に住む姪が、本人申立ての相談に来た、認知症が出てきた、身寄りが少なくて関わる人が少ないというケースの相談が目立ち、住民のの関心の高さもうかがえる。そういった状況からも後見などの権利擁護の知識普及取り組みや、認知症予防や脳の健康テストも継続的に実施していく必要性が高いと感じている。

2つ目の well being は年間を通して一番大きな事業である。8月から毎月開催し、人生に起こりうる様々な変化を自分らしく乗り切るための力をつけるための講座という形で、長田の能力をアップさせる、おさだっぷという名前をつけている。8月が高齢者ドライバーの安全運転の免許返納の講座、9月が被災時の介護食の作り方、10 月が自分史作り、11 月が ACP、12 月は住職を招き自分が亡くなるときのことを実際に体験する講座、1 月はファイナンシャルプランナーを講師にお金や相続遺言の講座を行った。ペットが取り残されるケースが多いため、2月はペット問題の講座を開催予定である。今後暮らしていく中で地域の方が興味を持っていることや直面することをテーマに設定したこともあり、2/4 時点で延べ参加者 251 名（平均年齢が 74.6 歳）となっている。平均男性参加率は 20.1%で、男性参加率で見ると最低が 11 月の ACP、人生の終着駅どのように迎えたいか医療やケアについて考える講座で、最高が 8 月開催の運転講座であった。男性は運転に関して自分事として捉えるが、ACP 等は関心が低くなる傾向が出ており、来年度の参考にしていきたい。アンケート結果から満足度も高い。次年度の要望が多い講座テーマとしては、4位：お金に関すること、3位：介護予防をもっと詳しく、2位：認知症予防、1位：自分史作りである。人生の振り返りとこれからの人生設計のときにすごく盛り上がり、もっとやりたいという意見が多かった。リピーターも多く、リピーターの方が新しい参加者を誘ったり、会場内で知り合いが増えコミュニティ形成が行われたり、来年度も継続開催を望む声が多い。会場は長田生涯学習センターを借りているが、川原会館でもやってほしいという声があるため検討が必要である。参加者の潜在的な能力や興味関心を発掘するいい機会にもなっており、今後 good at プロジェクトとの融合も期待できる。新たにおすすめ図書を会場に置く等、場を盛り上げる取組を開始した。地域の居場所のかたちとしてできてきていると感じているため、3月におさだっぷパーティーを開催する予定である。おさだっぷの総集編みたいな形で1年間を振り返り、来年度に向けての前向きな話し合いをしたいと考えている。

田村委員：
　おさだっぷパーティーは申し込みをしないと参加ができないのか。

包括：
　長田包括の電話番号に電話してもらうと申し込みできるようになっている。

田村委員：
　どなたでもと書いてあるが、高齢者は耳が遠かったりするため電話での申込みがしづらいのではないかと思った。

古井部会長：
　事前の意見提言シートの中で、おさだっぷのことを特徴として委員の皆様からも次年度の展望や、これが住民の意識向上になっていくので今後もぜひ継続をという意見があった。また、おさだっぷなども事業評価アンケートなどの評価を実施していきながらニーズの把握がされているという意見があった。

（２）情報交換

古井部会長：
　今回 3 回目の部会ということで駿河区全体での意見交換を行いたい。これまでは委員と包括とのやりとりが中心だったため、今回は参加されている地域包括支援センターの皆さんからもご意見いただきながら進めていきたい。

＜成年後見、日常自立支援事業について＞
大里中島包括：
　長田包括の成年後見申立て件数が 10 件とのことだが、相談の経緯等教えていただきたい。

長田包括：
　基本的に親族からの相談である。例えば遠方の親族から一人暮らしの高齢者の今後のことで相談したい、今後入所を検討していかなければいけない、等の相談があった場合に成年後見申立てについて説明し、お手伝いしますよという話をしている。身元保証会社にお願いしようにもお金がない場合は申立てを手伝い、最終的に家庭裁判所に提出して面談を受けるまで対応している。

大里高松包括：
　成年後見制度他にも日常生活自立支援事業の相談も多い。アプローチをしても、お金の管理を他人に任せたくないという方が多い。そういう方に限って電気が止まっていたり、借金があったり、年金が入っても毎月誰かにお金を借りるので奇数月の末日になると大体食べ物がない、お金を貸してほしいということが多い。また、成年後見制度は申立ての同意を得るまでにとても困難を感じている。申立て人がいない場合は市にお願いして、今年度は 2, 3 件お願いしている。

＜アウトリーチ、重層的支援会議について＞
小鹿豊田包括：
　大里高松包括へ、ケア会議のところでアウトリーチと重層的支援会議が 1 回となっているが、今回主導で進めたのか教えていただきたい。

大里高松包括：
　アウトリーチはこころの健康センターのアウトリーチ会議を利用した。受診に繋がらない、こだわりがあって適切な介護に繋がっていなかったケースに関してこころの健康センターに相談し、アウトリーチ会議をした。重層的支援会議は昨年度からの継続ケースで高齢者と孫、生活困窮も含まれる世帯について包括から福祉総務課に相談した。

＜児童クラブ　認知症サポーター養成講座＞
丸子包括：
　大里中島包括へ、児童向けに認知症サポーター養成講座を実施しているが、この児童クラブはどこからの繋がりで依頼があったか教えていただきたい。

大里中島包括：
　学校の方にお願いするのはハードルが高いので、比較的ニーズを把握しやすくて落ち着いて聞いてもらえそうな静岡市社協がやっている児童クラブに声を掛けさせてもらっている。前に中島児童館でもお願いしようと思ったことがあったが、人を集めることが難しいと言われた。

大里高松包括：
　地域包括ケア・誰もが活躍推進本部が年度初めに児童クラブあてに認知症サポーター養成講座の開催を声かけをしているため、ケア本部に相談するとよい。

古井部会長：
　児童クラブは社協が受託しているということで、同じ法人で少し連携がとりやすかった

り、例えば他の圏域でも中継ぎを社協で考えていただけるのか。

大里高松包括：
　窓口まではわからないが、小学生向けに福祉教育を実施しているため社協の福祉教育担当者にアプローチしてもよいのではないか。

古井部会長：
　委員の皆様、今までの話を受けてどうか。

下村委員：
　人手不足はどこもあると思うのでこれをクリアしながらやっていくのは大変だと思うが頑張ってほしい。

鈴木委員：
　先ほど成年後見の申し立てで皆さんいろいろ苦労されているという話を伺った。本人が成年後見制度を利用したいと思っていないと、こちらから勧めるのは難しいと実感しているため、そういったところで何らかの形で司法書士も連携できたらいいと思った。

古井部会長：
　日常的なお金の使い方に関して、判断能力がある程度残っている方について関わりが難しい。今後成年後見制度だけではなく、日常生活自立支援事業にもう少し繋がりやすくならないかとか、それ以外の新たな何か簡易な金銭管理ができる仕組みがあったらいいんじゃないかとか、そこに繋ぐまでの間にケアマネジャーや包括の苦労が非常にある。また、入院や入所など、家族の関わりが本当に必要なときに家族が遠方であったり、家族の関わりがあまりない方への対応をどうしたらよいのか、今回の報告の中でも具体的に表れていたのではないかと感じた。

７　令和６年度駿河区地域包括支援センター運営部会のまとめ
　別紙
　部会委員からの助言・提言シート【まとめ】及び令和６年度駿河区地域包括運営部会報告書（案）参照

古井部会長：
　3/13 日に行われる市全体の運営協議会に向けての協議ということで、事務局で作成した報告書案をたたき台として考えたいと思う。報告書の内容について事務局から説明をお

願いしたい。

事務局：
別紙資料に沿って説明。

古井部会長：
委員の皆様から質問や感想、意見をお願いしたい。

田村委員：
よいと思う。

鈴木委員：
4 番目の（2）持続可能な支援体制に向けた人材の確保というところで、特に地域の若い世代とどのように今後繋がりを作っていくのかが支援をする人材を増やしていくためにも必要なことだと思ったため、事業として今後展開していただけたらなと思った。

下村委員：
よいと思う。

稲垣委員：
今の指摘に賛成で、「子供世代への」を「若い世代に」へ変更してはどうか。

望月委員：
潜在的に地域力のある地域がたくさんあるように思う。例えば研修があればたくさん来てくれる地区もあれば、マップを作る地域等、いろんなことができている地域もあり、これを継続していくためにどういう体制を作っていくのか、地域のためにもそうだが、やはり福祉人材を確保するための取り組みも考えていかなければならないと思った。

古井部会長：
追加で修正ができればと思う点としては、3 の（2）地域課題の中で今日の議論であがった権利擁護の支援が必要な方の関わりが非常に難しくなっていることを追加できると思った。また、4 の（1）専門分野の前に「高齢分野以外の」を追加してはどうか。
部会として承認を得て協議会に報告するため、部会委員の皆様には承認の場合は挙手をお願いしたい。

部会委員：
　当日出席した部会委員全員が挙手。

古井部会長：
　全員から承認をいただいたので、修正した内容で地域包括支援センター運営協議会に報告する。